**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第８回　（２０１４年１１月１８日）**

**・第８回の勉強範囲：「第二版の出版のことばと序文」(10)頁**

・📖 p(10)　**霊性の師としてのシュリー・ラーマクリシュナの特徴**

・📖（つづきを読む）さらには**単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質**、・・・

（解説）

子供の特徴には6つあります。

1. **計算しない**
2. **中と外が同じである**
3. **隠すことがない**
4. **執着がない**
5. **サットワ・ラジャス・タマスの影響がない**
6. **何も考えないで信じてお任せする**

の「何も考えないで信じてお任せする」は、「疑わないで信じてお任せする」というのとは違います。

「あそこにはお化けがいるよ」とお母さんに言われたら、子供はすぐに信じます。（👉『福音』p357）同じお任せでも、大人はいろいろ確認してからお任せしますが、子供は質問せずにお任せします。その意味合いです。

「疑い」というのは、前から本物を知っていて、その関係で使うように思います。・・・「質問しないで信じる」「疑問しないでお任せする」と言ったほうがいいでしょうか？

（参加者）「無条件に信じる」「無条件に従う」「疑問を持たずにお任せする」etc.

　「何も考えないでお任せする」と「何も考えないで信じる」のケースバイケース、その両方なのですが。・・・「何も考えないで信じてお任せする」で、ＯＫですか？　そうですね、それならシュリー・ラーマクリシュナの子供の性質の、正しいニュアンスが出ますね。

シュリー・ラーマクリシュナの「何も考えないで信じてお任せする」例は、

1. 子供がお母さんの姿が見えなくて泣いています。そこに見知らぬお客様が来ました。その人が『おいで、お母さんの所につれていってあげる』と言うと、子供はすぐそれを信じてついていきます。（👉『福音』p363）
2. シュリー・ラーマクリシュナがのどの癌になった時、スボダー（シュリー・ラーマクリシュナの直弟子。のちのスボダーナンダジ）はミルク・ティーを飲めばすぐに治ると言いました。（のどの問題は紅茶で治るという慣習があった。）シュリー・ラーマクリシュナは何も考えずに、ラカル（シュリー・ラーマクリシュナの直弟子、のちのブラフマーナンダジ）に、紅茶を作ってくださいと頼みました。それは、痛むのどには熱くてstrong（きつい）ですと、ラカルは言いましたが、シュリー・ラーマクリシュナはそれを飲んでしまった。
3. あるとき何かがシュリー・ラーマクリシュナを刺しました。ヘビに噛まれたかもしれないと思ったタクール（シュリー・ラーマクリシュナ）は、ヘビの穴の中に手を入れました。ヘビにもう一度噛まれると治ると聞いていたからです。ほかの人に、『噛まれたその同じ場所を噛ませなければならないのですよ』と言われて、穴から手を出しました。（そのときは実際には蛇に噛まれたのではありませんでした）（👉『福音』p578、595）
4. 秋の霜はのどに良いと聞いていたシュリー・ラーマクリシュナは、顔を馬車の窓から突き出していました。そして風邪をひいてしまった。（笑い）（👉『福音』p578,595）

これらのようにシュリー・ラーマクリシュナは、人から聞いて、確認しないで、すぐ、信じました。すぐに信じてしたがって、違う結果が出ると「あなた、嘘を言いましたね」。（笑い）だからシュリー・ラーマクリシュナの前で話すのは難しい。すぐ信じますから。（笑い）これで問題がおこることもありました。それは**子供の性格**みたい。**egolessness**（エゴがない。無私）。

・📖（つづきを読む）さらには単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質、**激しい放棄**、・・・

（解説）

**たいへんな放棄、extreme renunciation　──シュリー・ラーマクリシュナのnatureのひとつ。**

あるお坊さんがホーリー・マザーに聞きました、「シュリー・ラーマクリシュナのいちばんの特徴は『宗教の調和』ですか？」**ホーリー・マザーの答えは、「シュリー・ラーマクリシュナの性格のいちばんの特徴は『放棄』です」**

・ふつうの放棄の意味は　：人（親族、家族も）から離れる。物（世俗的な楽しみ）から離れる。＜外側の放棄＞

・本当の放棄の意味は　　：執着はなし。ものがあっても、人がいても構わない。（それがあっても）それらに執着しない。＜内側の放棄＞

・全体的な放棄の意味は　：＜外側の放棄＞＋＜内側の放棄＞（サンニャーシーはこれ）

**シュリー・ラーマクリシュナは、サンニャーシー（出家しているヒンドゥの僧）でしたが、お坊さんの服は着ませんでした。**

**ひとつの理由は、お母さんを悲しませないため**。

カマルプクルで共に暮らしていた子供たちを亡くしたあと、ドッキネッショナルに来たお母さん。もし下の息子（シュリー・ラーマクリシュナ）まで（世俗を）放棄したら、お母さんが大変悲しむ。そう思ってお坊さんの服は着なかったのです。（👉僧衣は放棄の象徴）

**もうひとつの理由は、家住者の理想を示すため**。

お坊さんの服を着て、家住者の理想になるのは難しいです。シュリー・ラーマクリシュナは、放棄をしてサンニャーシーになっても、家住者の理想となるため、お坊さんの服は着ませんでした。

　シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーと結婚していましたね。あるとき、シュリー・ラーマクリシュナはトター・プリー（シュリー・ラーマクリシュナに出家のイニシエーションを授けたサンニャーシー）にこんな質問をしました。「私は結婚していますが、サンニャーシーになれますか？」トター・プリーの答えは、「奥さんがいても、抑制ができていればそれは本当の放棄です」でした。お釈迦様の家族はみな出家をしましたね──お釈迦様も放棄をしてサンニャーシーになり、奥さんも尼僧になり、息子もサンニャーシーになって僧院に入った──しかしホーリー・マザーは尼僧にはなりませんでした。シュリー・ラーマクリシュナとホーリー・マザーは離れていませんでした。

シュリー・ラーマクリシュナは、それ以外のすべてを放棄。**外も放棄、内も放棄**。

ホーリー・マザーは言いました。**以前に化身や聖者はいましたが、それほどの放棄は見たことも聞いたこともない**、と。

たとえばお金の放棄。お金は何のシンボルですか？　**世俗的なもののシンボル**です。**シュリー・ラーマクリシュナは放棄したので、お金に触ると大変なインパクトを受けました**（例①～③；『福音』p245ほか）。また、**未来のことを考えて、ものをとっておくことも出来ませんでした**（例④～⑥）。

1. スワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）がタクールのベッドの下にお金を隠した話（👉『スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの生涯』p57）
2. お金に触ると体が硬直する話（👉『福音』p916）
3. 金属にも触ることができなかった話（金属ものシンボルなので。いつもではない。ある特別な心のムードのとき）（👉『福音』p744、764、768ほか）
4. お金持ちが1万ルピーの寄付を申し出た話
5. ホーリー・マザーのスパイスの話（👉『ラーマクリシュナの生涯』）
6. シャンブー・マリックのアヘンの話（👉『福音』p917）

これらの例は、ふつうで考えると、信じられない！

**どれほど深い放棄か──シュリー・ラーマクリシュナの放棄は、自分の性格だけではない。その放棄は身体の一部分、神経システムのひとつになりました。ですから、放棄と反対の状態になると、反動が自然に出た。それくらい激しい放棄extreme renunciation**なのです。

「もの」についての無執着をみてきましたが、「ひと」についての無執着については、

1. ホーリー・マザーと結婚したことはすっかり忘れた。（そして霊的実践を続けた。）
2. 実際の親戚は自分と関係ない人のように感じた。（信者が本当の親戚のよう。）
3. スワーミージーが「どうしてそんなに我々を愛するのですか？」と質問した話。シュリー・ラーマクリシュナの答えは、「あなたたちの中に神様をみるから、あなたたちを愛しています。もし神様を見なければ、あなたたちから離れます」

また我々は、住んでいる場所にも執着がありますね。シュリー・ラーマクリシュナは全くそうではなかった。

1. ドッキネッショル寺院のガードマンが誤ってタクールを追い出そうとした。出ていけと言われたタクールは、タオルだけ持って寺院を出ていこうとした。

**あってもいい、なくてもかまいません。それがシュリー・ラーマクリシュナの放棄**です。

・📖（つづきを読む）さらには単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質、激しい放棄、**純粋さ**、・・・

（解説）

**シュリー・ラーマクリシュナは、身体、心、感覚、知性、すべてのレベルで純粋**でした。

「**purity**純粋さ」の定義は、

**・impurity不純さの意味は：真理・神様から離れた状態を生じる、やり方や考え方。**

**・purity純粋さの意味は　：そうでないやり方、考え方。**

世俗的なことを考えたり、世俗的な楽しみの経験、ひと、もの、食べ物、飲み物etc.すべてはimpureです。

・📖（つづきを読む）さらには単純素朴きわまりない子供のような性質と、まったくの無私の性質、激しい放棄、純粋さ、**誠実さ**・・・

（解説）

**truthfulness誠実さとその実践について。**

『バガヴァッド・ギーター』にタパス（苦行）の節（👉第17章17～19節）があります。苦行には、サットワ的、ラジャス的、タマス的な苦行があり、**サットワ的苦行では、「心」「身体」「会話」の3つのレベルでの苦行の実践が必要**だとされている。

そのうち、会話のレベルでの苦行のひとつは、「誠実さ」。**「誠実の実践」とは「真実の実践」**です。真実の実践というと何がありますか？

* 1. **言葉についてのtruthfulness**

**聞いたことを何も変えず**に、ほかの人に言う。**付け加え、編集editもいけません**。

* 1. **経験についてのtruthfulness**

自分の生涯の経験、出来事、見たこと、聞いたことを、**100％同じように再生reproductionする。変化しないで、隠さないで、率直に話す。それが真実**です。我々はある部分だけを言って、ある部分は言わないということがよくあります。それも本当は真実ではありません。

* 1. **誓い・約束に絶対従う**

従うと真実です。従わないと嘘です。

以上のことは、霊的というよりも（道徳的）、ふつうの人間関係における実践の内容です。そしてその実践は、本当に純粋にならないととても難しい。ふつうの人は、隠しごとがたくさんある。罰される可能性があると正しいことを変えて言う。考えと口に出して言うことが別。「心」「身体」「会話」の３つのレベルがバラバラ。

「福音」にあります。**“真実の実践はカリユガ（＊１）のタパシャー（苦行の実践）です”**（👉『福音』p916、797）

昔の苦行は別でした。瞑想、肉体的修行、断食、沈黙など。しかし現代ではそのような肉体的苦行はできません。では、現代の苦行はなんですか？

**それがサッティヤ。Practice of satya**。（サッティヤは霊的な意味。purity, truthfulness。）

もし、実践すれば、どれくらい難しいかわかります。ビジネスのときなど、真実をつらぬくのはいかに難しいか、皆さんそれを実感しているでしょう。だからふつうの人は、たまには嘘をつくのも仕方がないと思っています。

**しかし本当は、お坊さん、求道者にとってのチャレンジ**です。真実を伝え、道徳的にならないと霊的にはなれません。それはとてもとても大きなチャレンジなのです。

ではどのようにしたら、真実の実践ができますか？

**抑制**しないと無理です。抑制しないと真実の実践は無理です。抑制すれば真実の実践はできます。別の言葉で言えば、**欲望があると、真実の実践は出来ない**。**それがベース**です。**感覚と心をコントロールして純粋にならないと、進めない。「真実」と「純粋さ」と「抑制」はみな、関係があります**。

（＊１）カリユガ　：四つのユガすなわち世界周期の一つで、その最後のもの。われわれはいま、カリユガに生きているという。

それから、**真実の実践で気をつけること。**ちょっとおもしろいです。

1. 真実だけを言ってうそを言わないと、ときどき**うぬぼれのようになることがあります。それはよくない**。
2. **正しいことを言うと、ほかの人の心が痛くなる──その状況は避けた方がいい**。例えば、私はいつも正しいことを言います。だからといって、ある人の欠点を人前で言えば、言われた人の心は痛みます。それは出来るだけ避けてください。

サンスクリット語で、

**Satyam bruyāt 　　Priyambruyat　　Mābruyāt　　Satyamapriyam**

Satyambruyāt **（サッティヤムブルヤット）**　：いつも正しい言葉（サッティヤム）言ってください（ブルヤット）

Priyambruyat **（プリヤムブルヤット）**　：いつも甘い言葉（プリヤム）を使ってください

Mābruyāt**（マーブルヤット）**　：しかしそのことは言わないで

Satyamapriyam**（サッティヤムアップリヤム）**　：正しい（サッティヤム）けれど、ひとの心が痛くなる（アップリヤム＝苦い）ことは

**＜意味＞**

**いつも正しいことを甘い言葉を使って言ってください。しかし正しいことを言って他の人の心が痛くなるようだと、それは避けた方がいい。**

**＜二つの例外＞**

しかし、これには二つの例外があります。

1. お母さんお父さんが子どもを直すとき。
2. 先生が生徒に、グルが信者に対するとき。

その時の**目的は直す**ことだからです。

しかしふつうの人間関係は、相手を直す関係ではないでしょう？　だからそのときは、相手を傷つけるようなことは言わない方がベターです。

シュリー・ラーマクリシュナはこのように説明しました。

「足が不自由な人に、lameびっことは言わないでください。あなたの足が、どうしてそのようになったのかということは尋ねないでください」

直接、本人に言うと、その人は悲しいです。心が痛みます。ですから気を付けてください。

（参加者）あなたはびっこなんですねと言うのと、あなたは足が不自由なんですね、と言うのとでは違うんですね？

そうです。

さいごに、シュリー・ラーマクリシュナのtruthfulnessの話をしましょう。

シュリー・ラーマクリシュナが病気を患ってコシポルにいる時、信者が毎日、ある庭からタクールにライムを届けていました。タクールは毎日それを飲んでいました。しかしある日、タクールは突然それを飲めなくなりました。いままで毎日飲めたのに、なぜ突然飲めなくなったのだろうと、皆はびっくりしました。そしてよく調べてみると、その日から、庭のオーナーがチェンジしていたのです。前のオーナーにはライムをもらう許可をとっていましたが、新しいオーナーからは許可をとっていなかった。それは盗みみたい。シュリー・ラーマクリシュナはそのことについては何も知らなかったのに、だからライムを飲むことが出来ませんでした。シュリー・ラーマクリシュナは、truthfulnessの実践をしていたから、身体、心、神経etc.すべてのレベルでtruthfulnessになりました。シュリー・ラーマクリシュナは、真実そのものになったので、そのような状態になったのです。これは本当に、どれくらいのtruthfulnessでしょうか！

（『福音』勉強会第8回、以上）